

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190200143		
法人名	有限会社 アイシン		
事業所名	だいこんの花肥田瀬		
所在地	岐阜県関市肥田瀬2719番地1		
自己評価作成日	令和4年8月26日	評価結果市町村受理日	令和4年11月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&i_gyosyoCd=2190200143-00&SerVieCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地
訪問調査日	令和4年10月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「明るく家庭的な雰囲気の中でその人らしさを大切にしましょう」を理念に入居者様と職員が1つの家族のように明るく、笑顔の絶えない日々を送れるようケアに取り組んでいます。その人らしさの中ではご自分の好きな事、やりたいことに取り組める個別レクリエーションを、また入居者様全てが笑顔になれるレクリエーションを考えて行っています。それぞれの能力に応じたお手伝いや手作業を職員と一緒にやる事によって一人ひとりが役割や存在意義を持てるよう家族からの要望も取り入れながら行っています。各担当者は毎月のミーティングの前に家族様・ご本人様に要望をお聞きして、職員同士でも情報を共有して、より良い生活が出来るよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の「その人らしさ」を尊重し、日常生活で家事や趣味等できる事、やりたい事を一緒にしながら笑顔の絶えない事業所にしたいと取り組んでいる。運営推進会議は書面で定期的開催し、レクリエーションや食事会などの写真を載せた事業報告書を作成してメンバーから意見を聞いている。意見を参考にして面会方法や事故防止対策など職員間で話し合っている。時間をかけても良いのでパンツの上げ下げも含めてトイレでの排泄を支援している。職員間で話し合いながら昼夜とも布パンツで過ごせるように見守っている。職員は利用者の状態の変化や気づきを「連絡ノート」に記録し、職員間で話し合いながら利用者のペースに合わせた支援が出来るように取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「明るく家庭的な雰囲気の中でその人らしさを大切にしましょう」を理念として、玄関先に提示して、日々職員や家族の目にとまるようにしています。理念に沿った日々が送れるよう業務を行っています。	利用者一人ひとりの意向を大切に化粧や身支度など自由に過ごせるように支援している。職員は話し合いながら、家族や利用者の意向に添えるように取り組んでいるが、管理者は理念について話し合いが出来ていない。	管理者と職員が理念を共有するためにも、より具体的に掘り下げた話し合いを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防の為本年度も各種行事を自粛しておりますが、例年度は地域の方も呼びしての流しそうめんやふれあい祭りといった事業所の行事を行っています。	コロナ禍前は、地域の園児や高校生が事業所を訪問したり、市主催のグループホームの運動会に参加したりして交流していた。自治会に加入して地域の情報を得ている。近所の方から栗や花、野菜をもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会に加入し、地域の行事にも参加させて頂いています。本年度もコロナ感染予防の観点から自粛になっています。認知症対応型共同生活介護という点から地域の方がお話を聞きにみえる事もあり、丁寧に説明させて頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回の開催を別途に開催させて頂いておりましたが、本年度も新型コロナウイルス感染予防の為、行政からの指示のもとに開催しています。家族様にも、状況報告とご要望をお聞きしてサービスに取り入れています。	感染対策として書面で定期的に開催し、活動状況を報告している。メンバーから意見を返信してもらい議事録を作成して報告している。意見から事故の原因を分析したり、面会方法について話し合ったりしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ケアマネを中心に市町村との連携がなされていると思います。本年度もコロナ関係における指示や指導を受けています。又事故報告や身体拘束廃止に関する委員会報告書等も速やかに報告させて頂いています。	代表者が市の担当者に書類を提出に行ったときに情報を交換している。介護相談員が定期的に事業所を訪問して利用者や職員と意見を交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全入居者様に対して身体拘束等はしていませんが3ヶ月に1度は身体拘束検討委員会を開催し、又事業所内研修においても身体拘束についての研修を行っています。職員一人一人からも意見を聞きながら、身体拘束をしないケアを実践しています。	年間計画を立てて委員会や研修会を行っている。ミーティングで代表者や管理者から事業所の方針を説明し日々のケアについて振り返っている。身体拘束廃止や虐待防止について基礎知識を身につけて根拠のあるケアが行えるように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修においても虐待の定義や実例等を学び職員間でも言葉づかい等注意し合っ、虐待の防止を徹底しています。		

グループホームだいこんの花肥田瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在当施設には該当される入居者様はおられません。必要となった時の制度・機関等については把握しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に当たっては事前説明でも十分にお伝えし、契約時には重要事項説明書・契約書等について全て読み上げ説明し、同意を頂いた上で契約させて頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議はコロナ感染予防の観点から書面にて、ご意見・ご要望をお聞きしています。又毎月のミーティング前には入居者様、ご家族に要望をお聞きして、職員一同が共有できるようにしています。	利用者を担当している職員が2ヶ月に1回写真と一言様子を書いた手紙を送っている。家族が来所した時や電話で利用者の近況を伝えて意見を聞いている。利用者が数独が欲しいと要望があったため家族に連絡して購入している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、ミーティングを行い、その場で職員からの意見・提案・要望を聞くようにしています。それ以外にも職員からの要望や相談事があれば随時聞く機会を設けています。	ミーティングは代表者、管理者を含め全職員が参加し話し合っている。職員は気が付いたことを申し送りノートに記入し、ミーティングで話し合っている。コロナ感染対策としてサーキュレーターやアクリル板の要望があり設置している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職業に適した就業時間に合わせた勤務表を作成、急な変更にも柔軟に対応している。又職員同士の協力体制を作り、働きやすい職場にしている。処遇改善加算における査定も設け、職員のやる気に繋がるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、ミーティング時に社内研修を実施。年間の研修計画も立てている。社外研修についても職員の希望に添うよう、勤務表を考慮して作成している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は他の事業所との交流で勉強会やネットワーク作りを行い、介護支援専門員は居宅介護支援事業者連絡会に参加し、研修等の機会を設けている。介護職員にも勉強会等への出席を進めている。		

グループホームだいこんの花肥田瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接での入念な聞き取りやセンターシートを活用して本人の思い、家族の思いを丁寧に聞き取り、安心して暮らしてもらえるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接での聞き取りや施設見学の折などに家族様等の要望を聞き、当施設での暮らし方の説明等を行い、不安の解消に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階で本人様・家族様の要望もお聞きつつ、その時に必要となる情報を正確に提供するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様に出来る事をして頂くことが自立支援に繋がる事なのでそれぞれの能力に応じた仕事を一緒にして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在はコロナウイルス感染予防の為、自由な面会や外出ができない状況ですが、その分家族様にはきめ細かい生活状況の報告を行い、安心して頂くと同時に必要な支援をお願いし、協力して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現状ではコロナウイルス感染予防の為、自由に来て頂ける状況ではありませんが、これまではなじみの方の来訪や面会もさせて頂きました。	携帯電話の充電や操作方法を職員が支援しながら、居室で自由に会話を楽しんでいる。年賀状を書ける方には、自筆で書いてもらえるように支援している。家族や友人からの年賀状を居室に飾っている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの個性を尊重しながらも家庭的な雰囲気の中で孤立がないよう楽しく暮らして頂けるように支援している。		

グループホームだいこんの花肥田瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も本人様・家族様との関係を大切にしています。いつでも相談、助言等できることをお伝えしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月のミーティング前に各担当者が本人様より暮らし方の意向ややりたいことなどお聞きし、出来る限り反映している。	職員から利用者に声を掛けて意向を聞いたり、利用者を担当職員が定期的に意向を聞いたりしている。利用者の意向を連絡ノートに記入してミーティングで話し合っ共有している。困難な方には、発した言葉や表情、態度から思いを把握できるように話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にセンターシートに記入してもらい、その後も本人様や家族様の言葉の中からそれぞれの思いを受け止めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の介護記録や朝夕の申し送りの中で情報を共有し、特に健康状態などの重要な事項は別に連絡帳に記入するなどして現状を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、ミーティングの場で本人・家族の意向や要望を把握して、必要なサービス内容を見直し、介護計画を作成している。	モニタリングは、利用者の担当者が定期的に行っている。計画作成担当者は、家族に利用者の状況を伝え計画に対する意向を聞いている。家族や医師の思いを踏まえ職員間で話し合いながら現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	きめ細かい介護記録の作成、朝夕の申し送り、連絡ノートによる情報の共有を行い、その人らしい生活ができるよう介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の能力に応じた食事形態や入浴方法、日々の介護の仕方を事業所全体で見極め、その人の状態に添ったサービス提供ができるよう努めている。		

グループホームだいこんの花肥田瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状ではコロナ感染予防の為実施できていないが近隣の喫茶店や美容室の利用を本人・家族の希望にそよう実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望により協力医の往診を受けて見える方もおられますし、入居前からのかかりつけ医に家族同行にて受診されている方もみえます。	かかりつけ医は家族が同行して受診している。利用者の状態を書面で家族に渡して受診の結果を確認している。職員が病院まで送迎し家族と待ち合わせることもある。協力医の往診の結果を家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内看護師により利用者の状態変化を把握し、指示を受けている。夜間等不在時にも電話で報告し、指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院を訪問し、担当医師等への情報を提供し、現状報告を受け、退院に向けたカンファレンス等に出席している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末ケアは施設としては行っていませんが、本人・家族の希望を聞き、施設としての方針を説明しています。	契約時に事業所の方針を伝えている。食事量の減少や立位が確保できない場合など状態が変化した場合に、早い段階から家族に相談し意向を確認している。職員は、家族の意向を確認しながら次への施設に繋げることが出来るように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急車要請時のマニュアル作成、ヒヤリハット・社内事故報告書の作成と検討を通して事故発生を予防し、対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を実施しています。1回目は、令和3年11月17日(水)に実施しました。2回目は、9月6日(火)実施の予定です。	併設施設と合同で定期的に年2回訓練を行っている。食糧や水、オムツなど備蓄しているが、訓練への協力が得られていない。また、夜間を想定した訓練が行えていない。	夜間葬訓練の意義や実施方法を再検討し実施して欲しい。避難訓練に地域住民の協力が得られるように話し合いを期待する。

グループホームだいこんの花肥田瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	優しい声掛けで一日を過ごして頂けるよう、朝礼時に声掛けし、職員間でも言葉づかいに注意し合えるようにしている。	管理者は、利用者のペースを大切に命令調にならないように伝えている。職員は年上の方なので敬うような言葉使いを心掛けている。トイレに誘導する時は耳元で他の人に聞こえないように声を掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で出てきた本人の思いや希望を実現できるように努め、又本人が自己決定出来るようにレクリエーション等への参加もお聞きしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の日課等は決まっているが、当日の利用者様の体調や気分により、参加・不参加の決定はご自身にお願いしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には自分の着たい服や好きな服を着て頂いていますが認知症の進行で自己選択・自己決定が困難な方には職員の支援によりおしゃれが楽しめるようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな料理や食べ物を聞き、誕生日のメニューにしたり、行事食に取り入れていきます。食事形態も能力に応じて食べやすい工夫をしています。料理の下ごしらえや後片付けも手伝ってもらって職員と一緒にしています。	誕生日など特別な日にはウナギや寿司など利用者の食べたい物を出している。利用者は下拵えや盛り付け、片付けなど出来ることを手伝っている。家族からいただいた栗で利用者と一緒に栗きんとんを作っている。職員と会話しながら楽しく食事している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事摂取量を介護記録にて把握し、特に水分補給については1時間おきの提供やレクリエーション・共同作業の後などに提供するなどして十分にとって頂けるようにしている。好き嫌いのある方には別メニューでの提供もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、夕食後には義歯洗浄(ポリデント)、管理を行っている。歯ブラシ・コップは毎日消毒し、清潔に留意している。かかりつけ歯科医の往診も受け、助言等ももらっている。		

グループホームだいこんの花肥田瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	きめ細かい排泄チェック表に記入し、排泄パターンの把握や適切な誘導(夜間、どうしても自分で起きられず失禁してしまう人は、声かけてトイレ誘導している)を心がけている。	トイレに誘導し、パンツの上げ下げも含めて時間がかかっても良いので自立できるように支援している。立位が困難な利用者でも職員が介助してトイレに誘導している。布パンツでの生活が昼夜とも継続できるように職員間で協力しながら見守りや支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を1時間おきにする。野菜の多い工夫等、便秘予防に努めている。以前より便秘の方が少なくなった。手足の運動も取り入れたレクリエーションも実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様全員の希望通りの入浴は難しいですが、公平性も重視しつつ、体調に合わせて入浴できるようにしています。	入浴日は決まっているが、湯温や時間、順番など利用者の意向に合わせている。嫌がられる利用者には無理強いせず順番や日時を変更している。近所の方より柚や菖蒲をもらい楽しんでいる。昔話をしたり、歌ったりしながらゆっくりと入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、特に不眠の訴えがあるときに夜勤職員がリビングで一緒に話をしたり、テレビを見て落ち着いてもらっています。日中も本人の状態に合わせて昼寝の必要な方は休息できるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	施設内看護師と医療機関、薬剤師が連携しながら情報を交換している。服薬に関しては間違いの無いよう仕分けし、二人で確認するなど服薬間違いの無いように注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全体のレクリエーションと共に個々の個性や能力にあったレクリエーションを計画し、楽しみを持ってもらうようにしている。又個々の能力に応じたお手伝いもお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本年度もコロナ感染予防の為日常的な外出支援はできていないが通常は本人・家族の希望に添って散歩や喫茶店の利用、誕生日の外出行事等も行っている。感染が縮小すれば安全な形での実施を検討する予定です。	コロナ禍前は、利用者の意向を家族に伝えて帰宅や墓参り、食事に出掛けていた。桜やひまわり、コスモス、紅葉など季節の花を見にドライブに出掛けている。急に外出を希望する場合は、職員と一緒に散歩に出掛けている。	

グループホームだいこんの花肥田瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の利用者間での金銭トラブルや職員が盗ったなどの疑念が生じないよう家族様にも説明し、了解を頂き、施設内では個人的に金銭所持しないようお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方が2名、家族様にも了解を頂いて好きな時に使用できるようになっています。また希望があれば家族様との電話の受け渡しも行っています。手紙は必ず入居者様本人にお渡ししています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	静かで清潔な環境づくりと居心地の良い空間を作るような季節感あふれる壁面飾りやカレンダーの制作等も入居者様に協力して頂いている。本年のように暑い夏には適切な温度で暮らせるよう冷房の管理や空気の入換えをしっかりと行っている。	リビングには利用者と一緒に作成したカレンダーを飾っている。昔、華道の先生だった利用者が職員が持って来た花や家族等からいただいた花を活けて食堂やリビングに飾っている。職員は、感染対策に共有場所の消毒や換気に心掛けて快適に過ごせるように取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席では同じ人ばかりと話をすることの無いよう時折席替えをしている。又、ソファ席では自由に座ってもらい、だれとも会話が出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具や使いやすい衣類ケース等を持ってきてもらい、本人様がわかりやすく暮らせるようにしている。入居者様にも参加してもらい季節感のあふれるカレンダーの制作やご本人の塗られた塗り絵などを飾っている。	テレビやタンス、布団など使い慣れた物を持ち込んでいる。家族の写真や孫が書いた利用者の似顔絵を飾っている。メモが好きな方にはいつでも書けるようにメモ用紙を渡している。居室で新聞を読むなど自由に過ごせるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室周囲には手すりの設置とテーブルや椅子の配置、ソファの配置など安全第一に考え、環境作りをしている。見守りが必要な入居者様には見守りや介助をしている。		